

二〇二三年度 入学試験問題

国 語

第二回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから八ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

後の問いに答えなさい。

これを読んで、

5

10

15

20

25

30

95

90

85

80

75

70

65

110

105

100

問一 — (1)「私たちは海外旅行に行くときに、行き先の国の刑法体系について調べておくなどということはしないでしよう。」とありますが、その理由を二行以内で説明しなさい。

問二 — (2) に入る表現を本文から十五字以上二十字以内で抜き出しなさい。句読点や記号は含みません。

問三 — (3)『「正しさ」は、ある行為に複数の人間が関わるときに、その人たちの間で合意が形成されることで成立します。』とありますが、これはどういうことですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「正しさ」は、文化の特徴を取り上げて皆で議論し、お互いを尊重しながらすべてを認めているかによって決まるということ。

イ 「正しさ」は、そのルールの影響を受ける人たちの間で十分な話し合いがおこなわれ、皆が納得できるかによって決まるということ。

ウ 「正しさ」は、これまで大多数の人たちが合意してきた行動のルールに従い、自分自身の行動や生活態度によって決まるということ。

エ 「正しさ」は、議会がある法律を定めるとき、代表者たちの意志に基づくか、権力者による強制であるかによって決まるということ。

問四 — A D に入れる語を次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア それに イ つまり

ウ たとえば エ もちろん

問五 — (4)「あからさまに暴力的な手続き」とありますが、誰がどうすることですか。解答らんに行で説明しなさい。

問六 — (5)「ある法律が含まれている暴力」とありますが、ここでの「暴力」とはどういうことですか。二行以内で説明しなさい。

問七 — (6)「分断された社会」とありますが、そのようにならないために私たちがすべきことはどういうことですか。三行以内で説明しなさい。

問八 — (ア)～(オ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問九 — 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 正しさは文化によって異なるという文化相対主義の考え方には反論できない場合が多く、より正しいことを求めていく努力を断念させる方向へ導かれてしまう。

イ 国や社会の中で決められる法律は、その手続きにおいて十分な話し合いによる合意が形成されておらず、自分が納得できないものであれば、従わなくてよい。

ウ これまで正しいと思われることに対して反論する場合、お互いに話し合いを重ねながら複数の間でよりよい正しさを作り上げていくように進めるのがよい。

エ 何が正しいかは誰にも決められないという言葉は、どんなに話し合っても全人類が合意に達することはないと真理をふまえたもので、十分説得力がある。

80

75

70

65

60

55

50

110

105

100

95

90

85

145

140

135

130

125

120

115

180

175

170

165

160

155

150

問一

——(1)「三人はどうとう、よどんでいた気持ちをぶつけあうことになってしまった。」とありますが、本文全体を通して、次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一)「姫乃」は「菜種」に対し、どのような思いをぶつけていますか。二行以内で説明しなさい。文末は「……こと。」や名詞で止めなくてよい。

(二)「菜種」は「千鈴」のことをどのように思っていますか。二行以内で説明しなさい。文末は「……こと。」や名詞で止めなくてよい。

(三)「千鈴」は「姫乃」に対し、どのような思いをどのように言いましたか。三行以内で説明しなさい。文末は「……こと。」や名詞で止めなくてよい。

問二

——(2)「耳が勝手に声を拾う。」とありますが、「耳」を使った慣用句、また「声」や「音」に関することわざなどについて、次の一～五のそれぞれの語に関する説明を、【語群】の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- 一 耳が痛い 二 寝耳に水 三 産声を上げる
四 猫なで声 五 音を上げる

【語群】

- ア 人の機嫌を取ろうとする言い方。
イ いくら言っても効果がない。
ウ 弱点を指摘されてつらい。
エ 不意の出来事におどろく。
オ うれしくて声が生き生きする。
カ 新しい物事が作り出される。
キ 困難な状況に耐えられない。

問三

——(3)「そんな、めちやくちやな。」とありますが、このときの「千鈴」の心情として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分は一家家で過ごしたこれまでの時間は大切だと思っており、ずるいと言われても気にせずやってきたが、姫乃や菜種にまで言われるようになり、途方に暮れている。

イ 自分は一家家の家族や大地と仲よくすることを楽しいとは感じておらず、ずるいと言われるのは心外だったが、それ以上にこれまでの計画が挫折することに不安を抱いている。

ウ 自分は一家家で何か役に立ちたいと思っているのに結局何もできないので、ただ一緒の時間を過ごすだけなのだが、そのこと自体がずるいというのは心外で、困惑している。

エ 自分は一家家の家族になるために懸命に努力してきたことを褒めてもらいたいの、ずるいと非難されることに戸惑い、姫乃や菜種に対して苛立ちをあらわにしている。

問四

——(4)「姫乃の表情は、とても複雑に動いた。」とありますが、この時の「姫乃」の心情を説明したものとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千鈴の口から、「そうじゃない」と取り消そうとする言葉が出る瞬間、菜種から「それはありえないよ」という言葉を聞いたので、初めは驚いたが、菜種の悲しげな表情から「勝った」と思い安心する一方で、本当に門倉の娘になるのだろうかと不安にもなった。

イ 菜種の口から、門倉の父と母は姫乃のことが一番好きであると聞いて驚くとともに安心したが、同時に菜種のどこか悲しげな表情から、菜種は一家家で暮らすことが本当に嫌になったために門倉の娘になる決意をしてみたのではないかと不安にもなった。

ウ 千鈴の口から、姫乃は勉強も家事もできる菜種に嫉妬しているのだと言われて驚くが、菜種から門倉の父と母は姫乃のことが一番好きであると言き安心する。しかし何でも見通せる菜種にはかなわないと思ひ、これからは菜種には逆らえないと不安になった。

エ 菜種の口から、門倉の父と母は能力で人を見ることをしない誠実な人たちであり、彼らは姫乃を一番大事にしていると聞いて驚くとともに安心したが、同時にそれだけ家族のことをよく見ている菜種が本当に門倉の娘になりたくなかったのかと不安になった。

問五

A D に入れる語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア ちよこちよこ イ どっしり ウ ありありと
エ まじまじと オ じりじりと カ おずおず
キ ぎっしりと ク ちらり、ちらりと

問六

本文では「蟬たちの声」や「蟬時雨」の描写が何度も出てきますが、そのことによる表現上の効果の説明としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 66行目「わしゃわしゃとした蟬の声は、まるで姫乃の味方をするようにすごい迫力でせまってくる。」という描写から、菜種を挑発しようとする姫乃の攻撃的な態度が大きな脅威として感じられるように伝わってくる。

イ 94行目「蟬時雨の中の一匹が、ジッと鳴き終わり、別の一匹が、ミン……と、鳴き始める。」という描写から、三人のよどんでいた思いがぶつかる混乱した状況の中で、菜種の発した言葉に心から納得する千鈴の様子が伝わってくる。

ウ 153行目「蟬時雨は、大音声で降りそそいでいる。にもかかわらず、一瞬、周りの音が消えた気がする。」という描写から、周囲の音が聞こえなく感じるほどに、千鈴が姫乃を決定的に言い負かしてしまつた衝撃が伝わってくる。

エ 178行目「ミン、ミン、ミン、ミン、ミン……。ツクツクオーシ、ツクツクオーシ、オーシツクツク、オーシツクツク……。」という描写から、三人がそれぞれ思いをぶつけあつた後の沈黙がよくわかるとともに、大音声の蟬時雨の中にやり場のない思いが入っていくよう、途方に暮れる三人の様子がよく伝わってくる。

問七

次に示すのは、国語の授業で本文を読んだ後の先生の説明と、それに対してAさん、Dさんが感想を述べたものです。Aさん、Dさんの中で、明らかに本文の内容や特徴と合わない一人は誰ですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

先生 この物語は、新生児すり替えという事件を発端に、当事者の少女三人がそれぞれ別の家庭で過ごしていく体験をする中で、お互いの家族や本人の複雑な思いが描かれています。皆さんはどう感じましたか。

ア Aさん 門倉家の娘になるかもしれない菜種は、本当は一条家でのまま暮らしたいと考えているので、姫乃からずいと言われてやりきれない気持ちだつたと思います。

イ Bさん 登場人物は千鈴、姫乃、菜種が中心ですが、千鈴の視点から語られています。従つて姫乃と菜種の心理は千鈴から見たものであり、千鈴の内面がより深く伝わってきます。

ウ Cさん 勢いが止まらなくなった千鈴は、姫乃を言い負かした後、すぐに言い過ぎたことを後悔しているので、千鈴は姫乃が嫌いになつたのではないことを理解しました。

エ Dさん この物語は千鈴、姫乃、菜種、それぞれの視点から、三者三様の描き方をしたもので、蟬時雨の効果とともに夏休みの雰囲気がいアルな形で伝わってきました。

